

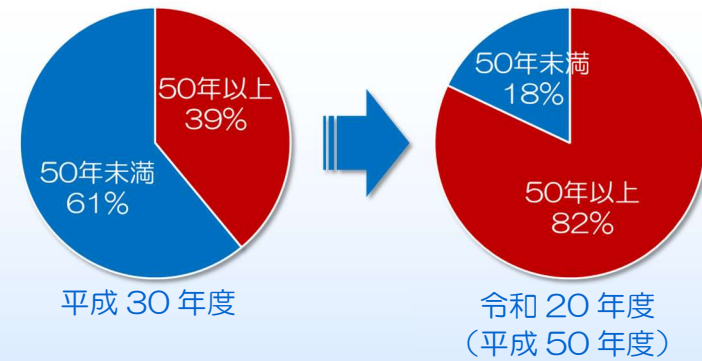
岸和田市 橋梁長寿命化修繕計画（概要版）

令和元年 5 月更新版

背景・目的

岸和田市が管理する橋は、平成 30 年度現在で 233 橋あります。その内、建設から 50 年を超えるものは全体の 39%を占める 90 橋あり、さらに 20 年後には全体の約 82%を占める 190 橋が架橋後 50 年を迎えることとなります。これらの橋梁は高齢化に伴い様々な損傷が見受けられ、従来の『悪くなってから対策をとる』という対症療法型の維持管理を続けた場合、架替えや大規模な修繕が必要となり、膨大な費用負担や工事中の通行止めなど、市民生活への影響が懸念されます。

そこで本市では、平成 26 年 9 月に「岸和田市橋梁長寿命化修繕計画」を策定し、対症療法型の維持管理から、『傷みが小さい時から計画的に補修する』という予防保全型の維持管理に移行し修繕を進めており、平成 27 年度～30 年度の 4 年間で 16 橋の修繕工事を行いました。また、平成 26 年 7 月に道路法施行令の改正により義務付けられた近接目視点検も 233 橋全てにおいて完了しました。今後も市民のライフラインとして、橋梁の安全性を持続的に確保するため、最新の点検結果に基づき、「岸和田市橋梁長寿命化修繕計画」の更新を行いました。



計画の対象とした橋

前の計画では岸和田市が管理する橋梁のうち、防災面や経済活動への影響度、地域ネットワークの維持等を考慮して選定した主要橋梁（93 橋）を対象に計画を策定していました。
今回の更新計画では市が管理するすべての橋梁（233 橋）を対象としています。

本計画による修繕の内容

更新した計画に基づき平成 31 年度より橋の塗装の塗替えや傷んだ箇所の補修、橋の架け替え更新などを計画的に順次実施します。

主な傷みの例

コンクリートのはぐり



鉄筋の露出



橋面舗装の異常



塗装の劣化



本計画実施による効果

※233 橋の計画策定結果による

本計画を実施することで、橋の寿命を 10 年から 50 年以上延命できるといわれており、100 年以上に延ばすことも可能といわれています。また、橋を維持する費用も総額 43 億円から 26 億円程度に節約できるとの試算になっており、大幅なコスト削減が期待されます。

対症療法型管理

悪くなってから対策

43億円

予防保全型管理

傷みが小さいときから計画的に補修

26億円

17億円の
コスト削減

今後の方針

本計画に基づいて橋の点検、維持、対策を繰り返し行うことにより、橋の適切な管理を積極的にすすめ、経済的に安全安心な道路ネットワークを維持するため、下記のとおり取り組んでいきます。

- ① 計画的な橋梁補修工事の実施
本計画に基づき、直近 5 年間の短期計画（岸和田市橋梁個別施設計画）を策定し、計画的に橋梁補修工事を実施します。
- ② 継続的で詳細な橋梁点検の実施
岸和田市が管理するすべての道路橋について、引き続き道路法に基づく 5 年に 1 度の近接目視点検を行います。
また、日常的なパトロールや清掃活動に合わせて、橋梁の状態を確認します。特に近接目視点検の結果、損傷の度合いが高い橋梁については、少なくとも年 1 回は損傷の進行を確認します。
- ③ 定期的な橋梁長寿命化終戦計画の更新
5 年に 1 度の近接目視点検の結果を踏まえ、5 年に 1 度本計画の更新を行います。
- ④ 品質確保への取り組み
本計画を着実に進めていくため、予防保全型の橋梁の維持修繕に精通した人材の確保、育成を行い、橋梁補修工事の設計や施工の品質確保に努めます。

計画担当部署及び意見を聴取した学識経験者

【計画担当部署】

岸和田市 建設部 高架事業・道路整備課

【意見を聴取した学識経験者】

大阪市立大学大学院 山口 隆司 教授